

検討の背景

◎ 2002年改定のフラスカティ・マニュアルでは、性格別研究費については、自然科学分野の方が区分されやすいものとされており、現行の科学技術研究調査においても、性格別研究費については、自然科学分野についてのみ把握してきた。

一方2015年改定のフラスカティ・マニュアルでは、人文・社会科学分野の事例を追加するなど、従来のマニュアルと比べ、より人文・社会科学分野を重点する見直しが行われた。

課題

現行の科学技術研究調査では、性格別研究費は自然科学分野に限定しているが、フラスカティ・マニュアルでは、人文・社会科学分野も含めた把握を提唱していることから、人文・社会科学分野も含めた把握方法について検討を行うもの



自然科学及び人文・社会科学を研究している客体、人文・社会科学の研究が中心の客体に対して、人文・社会科学分野も含めた性格別研究費の把握について、別紙の様式を提示して令和5年8月～10月にヒアリングを実施

性格別研究費の把握方法について

ヒアリング概要

【対象】

- ◆ 企業 : 8 客体 金融業, 保険業 = 3、学術・開発研究機関 = 3、その他の産業 = 2
 - ◆ 非営利団体・公的機関 : 8 客体 人文・社会科学系 = 5、自然科学系 = 3
 - ◆ 大学等 : 11 客体 人文・社会科学系 = 9、自然科学系 = 2
- 計 27 客体**

【ヒアリング方法】

対面・Web（18客体）またはメール（9客体）

【調査票変更案】

案 1 : 人文・社会科学を含めた支出金額
及びうち数で自然科学分を回答

| | 社内（内部）で使用した研究費 | うち自然科学に関する研究費 |
|-------|----------------|---------------|
| 総額 | 万円 | 万円 |
| 基礎研究費 | 万円 | 万円 |
| 応用研究費 | 万円 | 万円 |
| 開発研究費 | 万円 | 万円 |

案 2 : 人文・社会科学を含めた
支出金額を回答

| | 社内（内部）で使用した研究費 |
|-------|----------------|
| 総額 | 万円 |
| 基礎研究費 | 万円 |
| 応用研究費 | 万円 |
| 開発研究費 | 万円 |

案 3 : 人文・社会科学を含めた支出金額を
割合で回答>

| | 社内（内部）で使用した研究費 |
|-------|----------------|
| 総額 | 万円 |
| 基礎研究費 | % |
| 応用研究費 | % |
| 開発研究費 | % |

※基礎研究費・応用研究費・開発研究費の合計は100%とする

性格別研究費の把握方法について

ヒアリング結果

| | 企業 | 非営利団体・ 公的機関 | 大学等 | 合計 |
|------|----|----------------|-----|----|
| 区分可能 | 0 | 3 | 4 | 7 |
| 回答困難 | 4 | 5 | 7 | 16 |
| 合計 | 4 | 8 | 11 | 23 |

※ このほか、単一の性格別研究を行っているため回答可能とした企業が4 客体あり。

【主な意見】

回答可能

- 自然科学も回答していたため、同様のやり方で対応する
- 回答は可能だと思うが、膨大な負担がかかる
- 複数の性格に該当するプロジェクトは、主要な区分に振り分けることで回答可能

回答困難

- 人文・社会科学の研究費を性格別に把握しておらず、区分自体も困難
- 事例を見ても性格別に区分することは難しい（特に、基礎・応用の別）
- キーワードで当てはめられるようにしてもらえるとやり易い
- 研究者ごとの判断基準が異なることが想定され、回答内容の精度が保証できない
- 人文・社会科学分野は自然科学分野に比べ、基礎・応用・開発にまたがったプロジェクトも多く、性格別に区分することは困難
- 人文・社会科学の方が自然科学より区分が難しい。もし回答することになるのであれば、基礎に一括計上することになると思う。

ヒアリング結果から判明したこと

- 人文・社会科学分野における研究は、自然科学分野における研究よりも性格別（特に基礎・応用別）の判断が難しく、現状の事例だけでは対応困難。
- 自然科学分野の回答経験がない客体については、回答困難との割合が極めて高い。
- 人文・社会科学分野については、自然科学分野に比べ、基礎・応用・開発にまたがった研究が多く、かつ、回答が一つの区分（基礎研究）に偏る可能性が想定される。

性格別研究費の把握方法について

今後の方向性

以下の観点を踏まえて、引き続きヒアリング等を行い事例の収集に努める

現状の自然科学分野の回答方法について事例収集



人文・社会科学分野にも応用が可能な検討

性格別判断可能性の向上



人文・社会科学分野の研究事例を取集するとともに、性格別の事例を整理

性格別区分が混在している
場合の取扱い



人文・社会科学における、基礎・応用・開発にまたがる研究事例及び区分可能性についての事例収集